オープンキャンパス2014アジア史企画

史料に密着してみるアジア史―アジアのお茶を飲みながら―

日 時 8月2日(土)～4日(月)　　会 場 リバティータワー6階 1064教室
ガイダンス 10:10～10:40(午前の部)、14:10～14:40(午後の部)
模擬授業 11:20～11:50(午前の部)、15:20～15:50(午後の部)

８月２日～４日は、アジア史専攻の専任教員が多数出席して、大学で学ぶアジア史について語ります。共通テーマは「最新史料」です。みなさんとアジア各地のお茶を味わいながら、そこに暮らす人々が作り上げた歴史の最新研究を紹介していきます。

髙村武幸 准教授「木・竹に書かれた史料からみた中国古代」　（8月２日午前・午後）

中国では二千年以上前の遺跡から、当時の人々が木や竹に文字を記したふだ「簡牘」が大量に出土し、そこに書かれた内容は、研究に大きな影響をあたえ続けています。秦の始皇帝を例に、簡牘という薄いふだが中国古代史の姿を大きく変えた現状を紹介します。

梶山智史 助教「石刻史料からみた北魏王朝」　(8月3日午前)

4世紀後半に遊牧民族の鮮卑拓跋部が建てた北魏王朝は、歴史書には皇帝を戴く「中華王朝」として描かれます。しかし石に刻まれた文字史料を読み解くと、そうしたイメージとは異なる新たな一面がみえてきます。石刻史料を手がかりに、北魏の実像に迫ります。

寺内威太郎 教授「朝鮮史料からみた露清衝突事件」　(8月3日午後・4日午後)

歴史を研究する醍醐味の一つは、従来知られていなかった事実を明らかにすることにあります。1689年のネルチンスク条約締結で決着がついた一連の露清衝突の一端を、朝鮮の史料から明らかにしたいと思います。

櫻井智美 准教授「記念碑からみるモンゴル帝国」　(8月4日午前)

「野蛮なモンゴル帝国は、支配地中国の文化を破壊した」という以前の通説は、史料の新解釈によってくつがえされました。「儒教尊崇の記念碑」に関わる新解釈を中心に、記念碑にみえるモンゴル帝国の真の姿を明らかにしていきます。

お問い合わせ　アジア史研究室　asiashi@kisc.meiji.ac.jp